



MG COLLECTION

受け継がれるもの



北村季晴(1872-1931)作曲
 『御伽歌劇ドンブラコ(桃太郎)』(明治45.1.29 共益商社書店)
 第1場第1段、同第2段、第2場、第3場、第4・5場の分冊伴奏付初版譜。
 (明治学院歴史資料館蔵)

ピアノと笛太鼓に合わせて、桃太郎、爺、婆、
 犬野腕三郎、雉山拳三、真白野猿之助らが
 歌い活躍する御伽歌劇「ドンブラコ」。

日本人初のオペラ「露宮の夢」(一九〇四)を
 生み出した北村季晴が、

日本の子供にあう題材、素材を用いる計画で
 一九〇七年に作り始めたオペレッタだ。

自ら脚本を書き、
 病床の母に相談しながらわらべ歌を織り込み、
 唱歌、讚美歌とオルガン、木遣も取り入れて
 五年かけて完成。

一九一二年一月に、伴奏付きの五分冊版と全曲版、
 声楽パートの計三種の楽譜が出版され、
 五月には歌舞伎座で初演された。

すぐに大人気となり、宝塚少女歌劇
 第一回公演(一九一四)の演目としても注目を集める。
 築地の居留地などで西洋音楽に触れ、オルガンを学び
 ヘボンの勧めで明治学院から東京音楽学校へ。
 卒業後は音楽の教育と振興に尽くした北村季晴。
 創意と工夫を凝らして、自らが受けた賜物を
 引き継ごうとする心意気が伝わってくる。

遠山一行記念日本近代音楽館音楽司書 末永理恵子